

## I 特別活動 研究テーマ

仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す子どもを育む学び  
～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

## II 研究の重点

よりよい合意形成につながる省察のものさしを子どもと共有するための手立て

## III 研究の実践

指導者：中田 貴広

### 1 4年 議題「図工室のそうじの仕方をよりよくする工夫を考えよう」

### 2 成果と課題

#### 成果

#### (1) 議題の趣旨を焦点化し、学級全体にとってよりよい考えをつくる学習展開

・本単元では、焦点化した話し合いを展開してよりよい合意形成を図るよりどころとなるように、「学びのものさし」となる提案理由に基づく話し合いのポイントをつくり、その共通理解を図った。司会グループとの事前打ち合わせでは、前述の点について学級全体で共通理解を図るよう、確認する場を設けた。また、話し合い活動では状況に応じてよりよい合意形成に向けた適切な「話し合いの技」を選択し活用するよう助言をした。参加者には、それぞれの案のよさや不十分さを実感できるように、自分たちが選んだ案をお試しの活動として実践する場とその振り返りをする場を設けた。その結果、話し合いの中で以下の姿が見られた。

○提案理由や話し合いのポイントに立ち返りながら自分の考えを出す姿

○原案の不十分さを補う提案をする姿

○「話し合いの技」を用いて原案同士のよさを組み合わせた意見を出す姿

これは、司会グループとの事前の打ち合わせで「必要に応じて提案理由にもどす」「話し合いのポイントに立ち返る」という確認を行っていたことが、「学びのものさし」を働かせた目的意識のある話し合い活動につながったからだと考えられる。また、お試しの活動をしたことで、実感をとめないながら案に対する考えをもつ児童の姿が見られた。それにより、話し合いが焦点化され原案をよりよい考えにさせようとする思考が働き、話し合いの活性化にもつながった。このことから、「学びのものさし」となる提案理由に基づく話し合いのポイントをつくって共有したことは、焦点化した話し合いを進め、よりよい合意形成につながるために有効であったといえる。

#### (2) 話し合い活動の自己評価が次の活動にフィードバックできる振り返りの場の設定

・振り返りカードに、話し合い活動における参会者としての自分の取組について振り返る視点を設け、次の活動にフィードバックできるようにした。振り返りの視点は、話し合いのポイントと「話し合いの技」を基に設定した。また、話し合い活動における自分と友達の変容や取組のよさについて振り返ることができるように、自分のことについて振り返る欄と友達のことについて振り返る「今日の話し合いのMVP」の欄を設けた。振り返りの視点を設定したことで、前回の達成度と比較する姿や達成度の低い項目を振り返る姿が見られた。自己評価の中に達成度が低い評価が見られたことは、視点の項目を意識しながら話し合いに取り組んだ結果と捉えることができ、次の話し合い活動につながっていくものと考えられる。友達の取組についても、振り返りの視点の項目を基にそのよさを見つける姿が見られた。さらに、提案者の原案の内容や話し合いの起点となった友達の発言のよさを見付ける記述も見られた。このことから、話し合いの時の「学びのものさし」を視点として振り返りの項目に取り入れたことは、合意形成の方法や友達の意見のよさなど、合意形成に必要な要素に対する気づきを与えるために有効であったと考える。

振り返りカードのイメージ。話し合いのポイントや話し合いの技に関する振り返り欄、今日の話し合いのMVP欄、感想欄などが含まれている。

#### 課題 一人一人の納得度を生かして合意形成を行う学習展開の工夫

・本単元では、「納得度メーター」を用いて自分の納得度を可視化しながら話し合いを進めた。「まとめる段階」では、納得度の低い児童の意見を聞く場を設定し、できるだけ多くの納得を得られる考えをつくり上げることができるようにした。一人一人の立場を明確にする手立てとしては有効であったが、一人一人が話し合ったことの価値を感じられるようにするために、納得度の低い児童の思いを整理、価値付けしながら学級全体に広めていくことが課題である。

## IV 特別活動 1年次の成果と課題

成果1：「学びのものさし」を焦点化し、学級全体にとってよりよい考えをつくり出す学習展開

成果2：「学びのものさし」を視点とした自己評価が次の活動にフィードバックできる振り返りの場の設定

課題：一人一人の考えを生かして多くの納得を得られる考えをつくり出す学習展開の工夫

## IV 特別活動 1年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 「学びのものさし」を焦点化し、学級全体にとってよりよい考えをつくり出す学習展開

学級活動では、時として話し合いが混乱してしまいうまく進まない場合もある。その原因として、話し合いの視点がずれていたり、いろいろな意見を整理することができていなかったりすることがある。この点を解消するために、司会グループとの事前打ち合わせでは、話し合う場において、「学びのものさし」となる提案理由に基づく話し合いのポイントについて学級全体で共通理解を図ることを確認する場を設けた。また、話し合い活動では状況に応じてよりよい合意形成に向けた適切な「話し合いの技」を選択し活用するよう助言をした。参加者には提案理由に基づいた自分の考えをもって話し合い活動に参加することができるように、事前に学級会カードに考えをまとめる活動を設定した。このように「学びのものさし」を焦点化し話し合いを進めることが、学級の課題を自ら見いだして提案された議題の解決に繋がる発言をしたり児童主体でよりよい合意形成や意思決定を図ったりすることにつながった。

さらに、「学級全体にとってよりよい考えをつくりたい」という自分たちの願いを視点として、お試しの活動とその振り返りの場を設けることで、改善に向けた課題や原案の不十分さに気付くことができるようにした。議題や話し合いのポイントに即し、問題を解決するための原案のときは、話し合いが焦点化され原案をよりよい考えにさせようとする思考が働き、話し合いの活性化にもつながった。

#### (2) 「学びのものさし」を視点とした自己評価が次回の活動にフィードバックできる振り返りの場の設定

振り返りカードに、次回の活動にフィードバックできるように話し合い活動における自分の取組について振り返る参加者としての視点を設けた。振り返りの視点は、話し合いのポイントと「話し合いの技」を基に設定した。また、話し合い活動における自分と友達の変容や取組のよさについて振り返ることができるように、「今日の話し合いのMVP」の欄を設けた。

「何を」「何のために」振り返ればよいか事前に視点を設定したことで、前回の達成度と比較する姿や達成度の低い項目を振り返る姿が見られた。友達の取組についても、振り返りの視pointsの項目を基にそのよさを見つける姿が見られた。さらに、提案者の原案の内容や話し合いの起点となった友達の発言のよさを見付ける記述が見られた。「学びのものさし」を視点として振り返りの項目に取り入れたことが、合意形成の方法や友達の意見のよさなど、合意形成に必要な要素に対する気付きを与えることにつながったと考える。

### 2 課題 一人一人の考えを生かして多くの納得を得られる考えをつくり出す学習展開の工夫

学級活動(1)において、よりよい合意形成に到達するためには「まとめる段階」で、納得度の低い児童の意見を聞き、できるだけ多くの納得を得られる考えをつくり上げていくことが必要である。そのために、自分の納得度を可視化しながら話し合いを進められるようにした。一人一人の立場を明確にする手立てとしては有効であったが、一人一人が話し合ったことの価値を感じられるようにするために、納得度の低い児童の思いを整理、価値付けしながら学級全体に広めていくことが課題である。